

# 時候の挨拶

手紙では、「拝啓」などの頭語のあとに季節の挨拶を続ける。相手と同じ季節を共有しているということを示し、親しみの心を表すものである。

短い言葉で季節を表すこともある。

## ◆時候の挨拶例

一月 寒さがいちだんと厳しくなってきました。



二月 梅のつぼみのふくらむ頃となりました。



三月 各地から花の便りが伝わる頃となりました。



四月 優しい春風がほおをくすぐる頃となりました。



五月 さわやかな風の渡る頃となりました。



六月 あじさいの花が咲き競う頃となりました。



七月 真っ青な空に入道雲が浮かぶ頃となりました。



八月 行く夏を惜しむセミの声が聞こえる頃となりました。



九月 虫の声に秋を感じる季節になりました。



十月 実りの秋、木々の葉も色づく頃となりました。



十一月 落ち葉が風に舞う頃となりました。



十二月 木枯らしにいちだんと寒さを感じる頃となりました。



## ◆頭語と結語

頭語と結語は、組み合わせが決まっている。

頭語		結語	
拝啓	拝啓	敬具	敬具
前略	前略	草々	草々
拝復	拝復	敬具	敬具

- 「前略」は時候の挨拶や安否伺いなどを省き、すぐ用件を書くときに使う。
- もらった手紙への返信の場合は、「拝復」と「敬具」を使う。

季節の移ろいは、その年ごとに、また地域ごとに異なる。書く人が今感じている「季節」を表現しよう。